

CWAJ/VVI Newsletter 2020 年冬号

目次

1. ごあいさつ
2. CWAJ 版画展特別オンラインイベントに関するご報告
3. 編集後記

CWAJ = College Women's Association of Japan

VVI = Volunteers for the Visually Impaired (視覚障がい者との交流の会)

### 1. ごあいさつ

みなさんこんにちは。

年の瀬も近づきかなり寒くなってきましたが、皆さんお元気でお過ごしでしょうか？今年最後の VVI ニュースレターをお届けいたします。

今回は、この 10 月に開催された CWAJ 版画展特別オンラインイベントのご報告です。こちらは参加して下さった方も多くいらっしゃると思いますが、これをきっかけにまた当時お送りした版画の立体コピーを取り出して、懐かしく思い出していただけたら嬉しいです。大掃除の一休みの間に（私もやらなくては・・・）、みかんでも食べながら（？）お楽しみいただけましたら幸いです。尚、本 Newsletter は下記の CWAJ ウェブサイトからもお読み頂けます。

<https://cwaj.org/jp/education/volunteers-for-visually-impaired/>

### 2. CWAJ 版画展特別オンラインイベントに関するご報告

秋号でもお知らせいたしましたように、今年は、毎年開催している CWAJ 現代版画展が新型コロナウイルスの影響を受け中止となり、Hands-on Art も開催できませんでした。代わりに、オンラインで作品をご覧頂ける、「2020 CWAJ Open Print Art Gallery」が開催されました。その一部として行われたオンラインイベントについて、担当の田中紀子（たなか のりこ）よりご紹介いたします。

~~~~~

版画家廣田雷風（ひろた らいふう）氏によるアーティスト・トークが、10月24日に Zoom を使用して行われました。今年は CWAJ 現代版画展がオンライン開催になり、例年実施されていた「ハンズ・オン・アート」プログラムが実施できなくなったため、代わりに視覚障害者の方、一般参加者の皆さんと一緒に楽しんで頂けるプログラムを、と思いついたのがこの企画です。

当日は、視覚障害者の方 24 名を含み 110 人が参加しました。講演に先立ち、視覚障害者の

方には、今年の廣田氏の出品作品である Bare Piano の立体コピーを作成し、作品に触れながら講演をお楽しみ頂けるよう事前にお配りしました。

廣田氏は、講演でご自身の生い立ちやパリでの生活、幼稚園で美術講師をしていた時のこと、ピアノを主題に作品を作り始めるようになったきっかけなどについてお話下さり、Bare Piano については制作過程についても話し下さいました。ピンク、青、緑、黄色、濃い黄色、朱色、赤、黒と色を塗り重ね完成した Bare Piano はピアノから音が弾け出しそうな明るく楽しい作品となっています。

講演終了後、視覚障害者の方には、英語、あるいは日本語で、小人数での会話をお楽しみ頂く機会を設け、英語での会話には 8 人、日本語での会話には 14 人が参加し、廣田氏も加わり楽しいひと時をお楽しみ頂きました。

~~~~~

また、この秋より VI フレンズに加わっていただき、今回このイベントにご参加下さった方に、感想をご執筆いただきましたので、そちらも合わせてご紹介をさせていただきます。

~~~~~

みなさん、クリスマスも目前のこの頃、お元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。私は 10 月 24 日の廣田雷風先生をお迎えしての「アーティスト・トーク」が CW AJ のイベント初参加になりました、山形市在住の三浦保志（みうら やすし）です。視覚障害者で 61 歳です。さいたま市の芳賀優子（はが ゆうこ）さんのご紹介でみなさんのお仲間に入れていただきました。以下に今回のイベントの感想を記させていただきます。

廣田先生の作品の立体コピーが郵送されて来た時、今から考えれば迂闊なことでしたが、鍵盤などに気付かず、これはなんだろう、どこかの島か、山か、はたまた建物かと思いました。何物かは分からない、でも何かエネルギーを感じるなあとつぶやいてから、家人に「これ何だろう」と尋ねると「ピアノを真上から見たところだよ」。さて当日、廣田先生は美術の世界の人間ではあるけれど、音楽の世界に対する憧憬は断ち難く、特にピアノに対するそれは強い。人生最後の作品の題材もピアノになるだろうとおっしゃいました。ピアノが発するエネルギーも表現されているという意味のことにも言及されましたね。それが何であるか、言葉で認識できない中で感じたものは、作品の本質からそんなに遠くなかったと安堵しました。

英会話のグループでのおしゃべりは、廣田先生が途中から参加されてから、特に盛り上がり「先生の用いる赤とはどんな色ですか」「私はワインカラーが好きですが、先生はどんな風に赤色を作るのですか」などの質問もでて、和やかに語り合いました。これぞ通訳というような、痒いところにも手が届くような通訳をなさった大久保美智子（おおくぼ みちこ）さんなど、メンバーの皆様の献身的なサポートのおかげで、錆び付いていた私の英語でも 2

時間を超えるイベントをこころ楽しく、生き延びることができました。皆様、ありがとうございました。

~~~~~

他の参加者からも、「音楽をやっているがその演奏にとっても参考になった」、「ピアノがとても忠実に再現されていて驚いた」など多くの感想をお寄せいただきました。

新しい取り組みにご参加下さった皆さま、ありがとうございました。

### 3. 編集後記

冬号を最後までお読み下さり、ありがとうございました。

前回編集後記を書いたのは夏真っ盛り、日差しが焦げるようで外に出るのも気合いが必要、アイスクリームがお友達という季節でしたが、もうすっかり冬ですね。私は寒いのがとても苦手なので、冬眠してしまいたい気分ですが、そういうわけにもいきませんから、毎日パネルヒーターやひざ掛けを駆使して、如何に省エネで暖かく過ごしなが仕事ができるか模索している毎日です。一冬在宅勤務&あまり出かけない生活をする、どれくらい電気代がかかってしまうのか、今からちょっと心配しているので、環境のことも考えて少しでも省エネをと心がけています。

今年は新型コロナの影響で、皆さんと直接お会いすることがかなわない1年でした。オンライン ECG やオンラインハンズ・オン・アートそしてこのニュースレターなど、離れていても少しでも皆さんに楽しさや喜びがお伝えできていましたら嬉しく思います。

今年も残すところ後わずか。楽しいクリスマスそしてすてきな新年をお迎え下さい。

今年1年ありがとうございました。

来年もどうぞよろしく願いいたします。

ホームページ上でこのニュースレターをご覧いただいている方など、メールでのニュースレターの受け取りをご希望の場合には、下記にご連絡下さい。Newsletter に関するご感想なども大歓迎です。

(連絡先)

VolunteersVI@cwaj.org

Newsletter Editor (編集担当) : 安原理恵 (やすはら りえ)

Distributor (発送担当) : 本村理子 (もとむら みちこ)